



桐生キャンパス内の工学部同窓記念会館(平成 10 年に国の登録有形文化財として登録)

Contents

当	是	あり	いる	さつ)	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2	<u> </u>
君	洋馬	大	学の	りヒ	ジ	3	ン		<	学	長	か	B	指	t	ŧ	Ø	>		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3	}
÷	和	3 1	丰厚	₹の	ŀ	ピ	ツ・	ク	ス		<	Ľ	ジ	=	ン	に	対	す	3	令	和	3	#	度	O.	馭	組	'>					
	≪i	組約	哉己	女組	に	関	す	る	取	組	>		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		5	;
	≪:	教育	育に	翼	す	る	取	組	>		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		7	,
	≪'	研	究に	翼	す	る	取	組	>		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		9)
	≪:	社会	会了	献	等	に	関	す	る	取	組	>>		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		11	I
	≪!	財	务己	大善	等	に	関	す	る	取	組	>		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		12	2
	«	附属	萬菲	院	に	関	す	る	取	組	>		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		13	3
4	学	の <u>:</u>	主な	な収	入	財	源	の	状	況		<	事	業	遂	行	O	た	め	0	財	源	>		•	•	•	•	•	•		15	5
÷	和	31	丰厚	₹の	決	算	概	要		<	令	和	3	年	度	を	数	字	で	表	現	>		•	•	•	•	•	•	•		17	7
2	射	務打	旨標	票の	推	移		<	同	規	模	国	17	X	学	4	O	Ľ	較	>		•	•	•	•	•	•	•	•	•		23	3
群	羊馬:	大	学管	寶理	運	営	組	織		<	ガ	11	· ナ	ン	Z	体	制	'>		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		27	7
溑	金	の ⁷	不工	E使	用	防	止	推	進	体	制		<	資	金	を	逋	ΙE	に	管	理	>		•	•	•	•	•	•	•		28	3
郡	羊馬:	大	学基	金	の	概	要		<	本	学	を	hù	援	願	761	ŧ	す	!	>		•	•	•	•	•	•	•	•	•		29)
数	文字	で!	見る	る群	馬	大	学	-	群	馬	大	学	基	礎	デ・	- :	ጵ	_	<	本	学	O	規	模	感	>		•	•	•		31	l



学長あいさつ

この財務レポートは、群馬大学のステークホルダーである学生・保護者の皆様、卒業生の皆様、企業や自治体の皆様、そして地域の皆様など多くの方々に向けて、本学の令和3年度に実施した事業や財務状況の概要をご紹介しております。本レポートは本学の資産、負債、損益などといった財務状況を明らかにする「報告書」としてだけではなく、本学が掲げるビジョンや、そのビジョンに基づいた具体的な取組を合わせてご紹介することによって本学の現状を広くご理解頂き、ステークホルダーの皆様各々のお立場や目的など本学との関係性に応じてお役立ていただければ幸甚に存じます。

1949(昭和 24)年に制定された徽章は群馬大学が上毛三山に囲まれていることを表しております。上毛三山の中で荒牧キャンパスに最も近い赤城山は広い裾野を持っております。群馬大学も赤城山のように、広い知の基盤を形成し、その基盤の上にリージョナルからグローバルまで、さまざまなレベルの知の峰を作り、世の中に発信していきたいと思っております。学長ビジョンとして掲げた「知の拠点として地域の人材育成や地域社会を支える基盤となると同時に、グローバルな視点で活躍できる大学を目指す。」の実現に向け、皆様の意見を広く取り入れ、地方創生に貢献すると共に「知と人材」のグローバルな集積拠点として、一層魅力ある大学になるよう、改革を進めてまいります。



群馬大学長 石崎 泰樹

学長ビジョン

「知の拠点として地域の人材育成や地域社会を 支える基盤となると同時に, グローバルな視点 で活躍できる大学を目指す。」

教 育 多様化する社会で活躍する人材の育成 に向けた重点事項

- ① 教養教育から専門教育への有機的展開に向けた教学マネジメントの推進
- ② 情報リテラシー教育を基盤とした学部・大学院カリキュラムの整備
- ③ 産業界と連携した新たな分野融合型大学院教育プログラムの構築
- ④ 数理データ科学教育研究センターと各学部・大学院等 の連携によるデータサイエンス教育研究体制の強化

研究 基礎及び先端研究の推進に向けた重点 事項

- ⑤ 産業界や自治体等と連携したバックキャスティング的 な発想による研究の推進
- ⑥ URA(研究管理専門職)部門の強化による現状分析に 基づく研究支援の拡充
- ⑦ 若手研究者を中心とした研究費獲得支援による研究活動の活性化
- ⑧ 研究設備・スペースの共用化等研究資源の有効活用, IT 環境の充実による研究基盤の高度化・高機能化

社会貢献 地域の中核としての高度な知を提供するための重点事項

- ⑨ 本学の研究成果を活用した SDGs の推進, 地域イノベーションの創出
- ⑩ 国際センターの機能強化による教育研究活動のグローバル化推進
- ① 理工学部・情報学部による次代の産業を担う人材育成,共同教育学部・医学部による地域から世界に展開する教育・保健医療を担う人材育成
- ② 地域医療の中核拠点である附属病院における安全・ 安心な医療,患者参加型医療,先端医療の提供

経営大学経営基盤の強化に向けた重点事項

③ IR 機能の強化とエビデンスに基づくデシジョンメイキングの推進

(IR: Institutional Research)

- ④ 教職員の適正な評価・配置を通じた教育力・研究力・ 社会貢献力の向上
- ⑤ ダイバーシティの推進,多様な人材の活用による大学 運営の活性化
- 16 積極的な情報発信による本学のブランディングの推進
- ⑪ 教育研究基盤強化のための基金等の拡充
- ® IT 環境等の拡充による群馬県のロケーションを活かした大学の魅力の向上
- (19) ステークホルダーを尊重する法人経営の実施

令和3年度のトピックス ≪組織改組に関する取組≫

●令和3年4月から新学部「情報学部」が始動 学長ビジョン (12)4(9)11(4)

令和3年4月に設置した情報学部では、4つのプログラム(人文情報プログラム、社会共創プログラム、データサイエンスプログラム、計算機科学プログラム)において、情報を基軸とした文理横断型の教育により、

Society5.0 を支え、IoT、ビッグデータ、統計的解析手法等のスキルを持ち、人文科学、社会科学、自然科学の知識を有した人材を育成するとともに、全学における情報に関する教育・研究の向上に資する学部となることを目指しています。

令和3年度には学生の受入れが始まり、設置計画に基づく学年進行を着実に進めました。また、学生の理解を 高めるため、教育課程の充実・科目配置計画の見直しについて検討を進めています。

1年次

学部基盤教育

どのプログラムにおいても基軸となる専門能力を養い、プラグラム横断型の科目の履修を通じて文理融合による俯瞰力を育成

2 年次

希望するプログラムを選択

情報学 融合型 PBL・ゼミ (演習)・卒業研究により実践的に活躍できる能力を涵養







データサイエンスプログラム



計算機科学プログラム



人文情報プログラム

人文科学的知見を活用して高度情報化社会に おける課題を探索する能力を修得します。



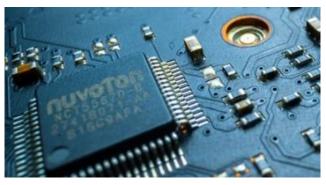
社会共創プログラム

社会的課題の解決および社会目標の達成のためのシステム(制度)の構築や方策を提案できる能力を養成します。



データサイエンスプログラム

ビッグデータを情報システムを利用して収集 する方法を設計し、データを元に目的とする価 値に適合した解決策を導く能力を養成します。



計算機科学プログラム

計算機や情報ネットワークをその数理的原理 から理解し、人工知能や各種情報システムを研 究開発できる能力を養成します。

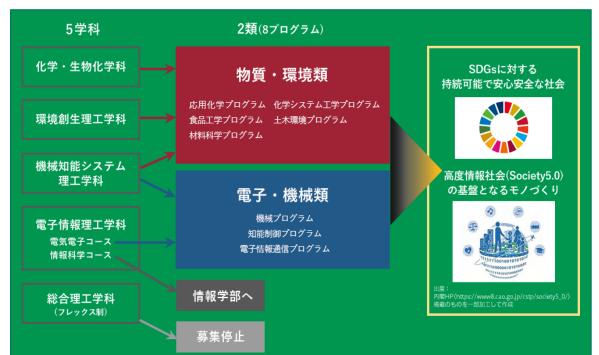
●令和3年4月から新生「理工学部」が始動

学長ビジョン (1.9)(1)(4)

理工学部においては、令和3年4月に改組を行い、従来の5学科体制による細分化された教育システムから、より幅広い学修体制をとることで分野横断的な教育を強化するため、2類8教育プログラム体制に再構築するとともに、理工学の知識を基にした食品工学、化学と物理の融合した材料科学、電気と機械の融合した知能制御を学べるプログラムを新設しました。

特に、食品工学プログラムは、学長の強いリーダーシップの下で、群馬県からの要望を踏まえて県の主要産業である食料品製造の振興に寄与することを目指して、食健康科学教育研究センターと連携して教育研究を担い、本学の機能強化を実現する組織となるよう計画しています。

また、改組 後は、学生 10~15名程 度に対して1 名のメンター を設け、履修 方式・進路・ 将来設計など について、学 生からは相談 しやすく、教 員はきめ細か い指導ができ るようなシス テムを導入し ました。



●設置から2年目の宇都宮大学との共同教育学部

教育学部では、宇都宮大学と共同して、全国初の共同教育学部を令和2年4月に設置しました。設置に当たっては遠隔設備を導入して合同授業を行う環境基盤を整えており、令和3年度からはLMSを一本化して資料共有や課題提出を簡便化しました。

さらにICT教育担当の実務家教員を新たに採用し、教務委員会内に DX部会を設置して、遠隔授業等の機器類や先進的な科目群(forefront 科目)におけるICT関連科目の充実を図っています。

令和2年度から、両大学の学生が合同で学修する授業を開講しており、コロナ禍に伴う特殊事情を勘案しつつ、学生に対する年2回の斉一授業アンケートにより、評価、改善を実施しました。

また、令和3年度には本学共同教育学部が主催した成績評価におけ



るルーブリック活用に 関するFDに宇都宮大 学の教員も参加して、 ともに理解を深めまし た。

学長ビジョン 129114





宇都宮大学との斉一授業の様子

令和3年度のトピックス ≪教育に関する取組≫

●「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」認定

令和2年度から、数理データ科学教育研究センターが中心となり、全ての学部生が数理情報及びデータ科学に関するリテラシーを身につけられるようにするため、これまでの教養教育科目「情報」を「データ・サイエンス」に改称し、授業内容を見直して開講しています。この「データ・サイエンス」では、「群馬大学 LMS」

(Learning Management System)を用いて、担当教員と授業時間以外の質疑応答や学生ごとの履修状況管理ができます。さらに教材動画視聴記録や演習問題の回答結果が記録される仕組みにより、学生ごとの授業内容の理解度の把握が可能です。

また「データ・サイエンス」は、令和 3 年 8 月に文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定されました。さらに、今後より上位の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」に申請するため、新たに「データサイエンス・AI・機械学習」、「Python 入門」及び「データサイエンス応用」を令和4年度に開講しました。

このほか、令和 4 年 3 月に、本学教育プログラムデジタル修 了証(オープンバッジ)の第一弾として、「数理・データサイエ ンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」修了者 に対してこのバッジを発行しました。



第一弾として発行する オープンバッジ





MDASH Literacy

Approved Program for Mathematics, Data science and AI Smart Higher Education

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 リテラシーレベル

認定の有効期限:令和8年3月31日

学長ビジョン 124

「プログラミング, AI, ディープラーニング, ビッグデータ…」よく聞 くけど、一体何?

これからの時代を生きるみなさんにとって、文理や学部に関係なく必要な素養です。数理データ科学教育研究センターでは、全学部、全学年の学部生を対象として以下の3つの授業を開講します。

データサイエンス・AI・機械学習

金曜日・3-4

担当教員からのメッセージ:

文系・理系に関係なく受講できる内容ですので、是非 参加してください!

Python入門

水曜日·7-8

担当教員からのメッセージ:

プログラミング言語の習得は難しいと考えがちですが、基本 的な構造は、順接、選択、反復の三つだけです。自ら積極的 に「手」を動かしましょう!

データサイエンス応用

水曜日・5-6

担当教員からのメッセージ:

「データ・サイエンス」の授業をさらに発展した応用基礎の 概念を平易に説明します。将来、みなさんの専門分野に役立 つことでしょう!



対象学部:全学部 対象学年:1-4 年生

【教養教育】総合科目群, 2単位

オンラインでの開講です。10月第一週目の ガイダンスに気軽に参加してください!

※なお、認定された教育プログラムの中から、先導的で独自の工夫・特色を有するものに与えられる「認定教育プログラム(リテラシーレベル)プラス」として令和4年8月26日に認定されました。

3英語で議論に接接 can cart

●教養英語新カリキュラムの運用開始

学長ビジョン ①

英語運用能力、英語 4 スキルの全学的向上のため、教養英語新カリキュラムの運用を開始しました。

旧カリキュラムでは、教養英語科目は各教員の裁量で進められていましたが、新カリキュラムでは、現在社会において求められているジェネリックスキルを涵養すべく、論理的思考力、問題解決能力の育成を重視した全学部統一カリキュラムを設定し、1年次、2年次の年次目標を定め、学内で作成した教科書、教材を用いて、授業を進めています。

また、共通評価基準 (ルーブリック) による成果の可視化や Can-do リスト及び Reflection による学生の英語学習の自己省察が可能となりました。

(右図)「教養英語Can-Do Statement」による英語力自己診断のチャート

①全くそう思わない ②あまりそう思わない ③まあそう思う ④とてもそう思う 1年次 Learning Attitudes 2年次 (「学習態度」に関する項目) 入学時 前期 後期 前期 後期 can participate actively in English lessons 1 (英語の授業へ積極的に参加できる。) I can cooperate with my classmates using only English. 2 (英語だけを使って、クラスメイトと協力できる。) can participate actively in English discussions (英語で議論に積極的に参加できる。) can appreciate and accept the opinions of other people. 4 (他者の意見を尊重し、受け入れることができる。) can understand and take responsibility for my roles in tasks and 5 (活動の中で、それぞれが果たすべき役割を理解し、自ら行動に移すこ Learning Attitudes 2.英語だけを使って | Casa cocco

4.倍者の意見を容重 I can appr

5活動の中で、それ

●ポストコロナ時代を見据えたオンライン協働教育の展開

学長ビジョン (1/10)

コロナ禍の影響により、渡航を伴う学生の派 遣と受入が困難でありましたが、海外の協定大 学と連携して、オンラインを活用した新たな国 際協働教育を始めました。令和2年度から、C OIL 型 (Collaborative Online InternationalLe arning) の国際協働プロジェクトを実施し、こ れまでの語学のみを学ぶ海外短期研修から、協 定校との連携により、語学を学びつつ、海外の 大学生と一緒に協働プロジェクトを行うアク ティブラーニングの要素を持つ国際 PBL (Proi ect-based Learning) に切り替えました。令和 2~3年度で、COIL 型国際協働プロジェクト は、計5研修実施し、本学の学生 60 名が参加 しました。



FUNiXとの協定締結のための調印式の様子

さらに、グローバル化担当の学長特別補佐を中心に、DX(デジタルトランスフォーメーション)により、協定 大学間の国際連携をさらに加速させる取り組みとして、令和3年度中に、協定校の間で授業科目を共有し、学生の バーチャルエクスチェンジを可能とするオンライングローバルキャンパス(Smart Campus-to-Campus: SCC) の構築を開始しました。令和3年11月に、FUNiX(ベトナム FPT コーポーレーション)と、SCC 構築のための 協定を締結しました。また、この SCC の枠組みを活用して、令和3年度中に、SCC のメンバー機関となるベトナ

群馬大学大学院理工学府

♠ EMERC

エレクトロメカニクス教育研究センター キックオフミーティング

2021年12月21日(火)14:30-16:00 オンライン開催 参加費:無料





2021年12月21日(火)14:30-16:00 Zoomを用いたオンライン開催

https://forms.gle/dM8gZKbJfszfBxEr8



参加申込用 のRコード

プログラム

14:30 開会

5間 経章(理工学府長,知能機械創製部門教授)

14:35 センター発足の経緯と概要説明

14:50 メカニクス・システムデザイン研究部会の 紹介 孝明(部会長,知能機械創製部門 教授)

15:05 先端センシングと医療・福祉・介護応用に よるOoLの向上研究部会の紹介

15:20 AI・計測制御・エネルギー研究部会の紹介

15:35 機械系教育ユニットの紹介

15:45 電子系教育ユニットの紹介

15:55 閉会

司会進行:楯 正樹(理工学部副事務長

群馬大学大学院理工学府エレクトロニクス教育研究センター

Electro Mechanics Education and Research Center (EMERC) tel: 0277-30-1700 (平日9:00~17:00) email:emerc@ml.gunma-u.ac.jp

群馬大学大学院理工学府エレクトロニクス教育研究センターは、電子・機械系を中心とする 倉官学共同研究ならびにリカレント (リスキリング) 教育の若漢を目的として祭足しました

群馬大学肆工学郎・大学院珠工学府 桐生キャンパス:〒376-8515 群馬県桐生市天神町1-5-1 太田キャンパス:〒-373-005

ム FPT 大学及び関連する企業、病院、教育機関と の連携により、単位認定の COIL 型の国際インタ ーンシップを実施し、本学の学生 10 名が参加し ました。

●大学院理工学府におけるリカレン ト教育の推進のためエレクトロメ カニクス教育研究センターを設置

学長ビジョン (3/9)

社会人学び直しプログラムとして、桐生キャン パスでは「グリーン・ヘルスケアエレクトロニク スを支えるエグゼクティブエンジニア養成プロ グラム | を実施しており、令和3年度は延べ131 名が受講しました。また、太田キャンパスでは「社 会人リカレント教育」を実施しており、令和3年 度は延べ120名が受講しました。

これらのリカレント教育及び関連研究を統合 できるような組織として、令和3年度にエレクト ロメカニクス教育研究センターを設置しました。 オーダーメイド型プログラムの開発を含め、これ までの活動を更に拡充し、リカレント教育の窓口 を一本化しております。桐生・太田キャンパスで それぞれ実施している社会人学び直しプログラ ム相互の情報交換が可能となり、受講生募集の幅 が広がりました。

令和3年度のトピックス ≪研究に関する取組≫

●重粒子線医学推進機構と国内外機関等との連携 学長ビジョン ⑨⑩⑫

国内外の施設間連携を推進するため、令和3年度には、インドタタメモリアルセンターと MOU (学術交流に関する協定) を締結し、韓国ソウル国立大学病院との MOU を更新しました。タタメモリアルセンターとは定期的

なオンラインカンファレスを実施しています。 た、米国フロリダで陽子に、 ならびに重粒子を引っています。 を計画している合いでのでいる。 がに重なったとのでのでいる。 がは、 がは、 がに重ないるでのでいる。 がは、 がは、 がいるでのでのでいる。 がいまし、 がいました。 がいました。 がいました。 がいました。 がいまりないました。 がいました。



重粒子線医学推進機構とタタメモリアルセンターとの調印式の様子

●未来先端研究機構において世界水準研究を実施 学長ビジョン 6(7/8/9/10/15)

未来先端研究機構において、世界的研究機関や研究者との共同研究等を積極的に実施するなど、本学の強みを有する統合腫瘍学、内分泌代謝・シグナル学を始めとした世界水準の研究を実施しています。この取組みを具体化するため、同機構の専任教員の30%以上を外国人研究者等とするなど、いくつかの目標を設定しています。令和3年度の目標達成状況は次表のとおりです。

目 標	実績値
未来先端研究機構の専任教員の <u>30%以上</u> を外国人研究者等とする。	42%
派遣及び受入れ期間を1週間以上とする研究者の国際交流を 年間3件以上 行う	2 件※
外国人研究者との共著論文を 年間 10 本以上 発表する	23 本
国際的なシンポジウム、ワークショップ等を 年間2件以上 開催する	2件

※新型コロナウイルス感染拡大の影響下で実施できた件数。そのほかに、オンラインの活用等により、リモートで研究交流を重ねています。



第11回群馬大学未来先端研究機構国際シンポジウムの様子



第12回群馬大学未来先端研究機構国際シンポジウム 会場の様子



第12回群馬大学未来先端研究機構国際シンポジウムポスター

●「次世代研究者挑戦的研究プログラム」 (科学技術振興機構) に採択

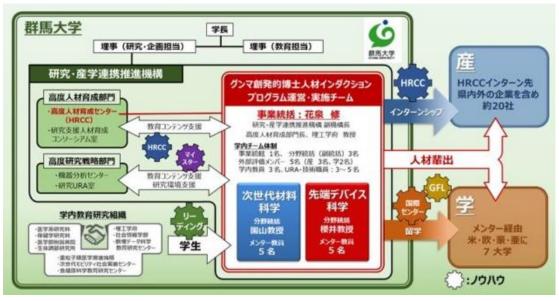
学長ビジョン 367911

令和3年度は、次世代研究者挑戦的研究プログラム(総額約2億1,000万円)が採択され、「グンマ創発的博士人材 インダクションプログラム」を開始しました。本プログラムでは、我が国の将来を担う科学技術・イノベーション 人材を育成するために、博士後期課程の優秀な大学院生(留学生を含む。)に対し、修業年限中に生活費相当額(16.5 万円/月)と研究費等を支援します。

本プログラムの推進により、既存の枠組みを越えて博士後期課程学生の自由で挑戦的・融合的な研究を支援する

とともに、学生が研 究に専念できる環 境を整備し、併せて キャリアパスの支 援などを行うこと で、優秀な博士後期 課程学生を多様な キャリアパスで活 躍できる博士人材 へと導くことを目 指しています。

初年度に当たる 令和3年度には、博 士後期課程 1 年生 8名、2年生6名を 採択しました。



「グンマ創発的博士人材インダクションプログラム」概要

学長ビジョン (5/9) ●日本初の完全無人トラックによる場内搬送実証実験の成功

現在運輸業界はトラックの運転手不足などの問題を抱えています。令和3年6月30日に本学と「産学連携に関 する包括協定書 | を締結した安中市の運送会社ボルテックスセイグンでは、この問題に対し、群馬大学次世代モビ リティ社会実装研究センターが開発した自動運転機能を適用した自動運転トラックによる場内搬送の実用化を進 めています。令和4年2月19日にボルテックスセイグンの物流センターにおいて日本初の完全無人トラックによ

る場内搬送実証実験を行い、成功しました。



(左図) フォーク作業者にタブレットで動作を指定されて無人トラックが動く様子

令和3年度のトピックス ≪社会貢献等に関する取組≫

学長ビジョン 9(16) ●こども体験教室「群馬ちびっこ大学」をオンライン開催

こども体験教室「群馬ちびっこ大学」について、令和3年度はオンデマンド教材を作成し、Youtube で動画を公 開しました。開催期間中の視聴数は 10,000 回以上となりました。動画は、開催期間終了後も本学 Youtube 公式チ ャンネルからいつでも視聴できるようにしています。

アンケート調査においては、「わかりやすい実験でよかった」、「来年以降も実施を希望する」、「実験のおもしろさ を知り、将来大学に行って、色々と実験してみたいしなどの意見がありました。

また、「群馬ちびっこ 大学 | 協賛企業の太陽 誘電株式会社から、(一 社) 学びのイノベーシ ョンプラットフォーム の紹介を受け、本プラ ットフォームが進める 初等中等教育への「群 馬ちびっこ大学 | のデ ジタルコンテンツ教材 の利用を許可するとと もに、STEAM 教育の全 国展開支援等を目的 に、本プラットフォー ムへ特別会員として入 会しました。



学長ビジョン 9(6) ▶郷土かるたコレクションのデジタルアーカイブを公開



太田かるた

群馬県や日本郷土かるた協会の協力の下、地域貢献事業 として、中央図書館所蔵の郷土かるたコレクションのデジ タルアーカイブ化を実施し、令和3年3月に大学ウェブサ イトにて群馬県内の郷土かるた60点を公開しました。

中央図書館が所蔵する郷土かるたコレクションは、本学 共同教育学部の名誉教授及び非常勤講師から寄贈された 全国各地の郷土かるたをもとに、その後、個人や団体から の寄贈や独自に収集したものを加え、現在、その数約300 種に及び、全国でも稀有なものといえます。

令和 4 年 1 月には、群馬県以外の郷土かるたを含む 93 点を追加公開し、現在公開している郷土かるたは計 153 点

> (27 都道府県) となりました。 令和 3 年度末までのページビュ ーは 15 万回以上となり、そのう ち約 7 割が海外を含む群馬県外 からのアクセスとなっています。 令和 3 年度は郷土かるたの価値 を周知するための動画を 4 本製 作しました。令和 4 年度には本 学公式 YouTube で公開し、県内 小学校へ周知する予定です。

令和3年度のトピックス ≪財務改善等に関する取組≫

●本学初のクラウドファンディングを実施学長ビジョン (6)(7)

令和3年度から、教育、研究、社会貢献、学生の 課外活動等の更なる推進のため、クラウドファンディングを活用したプロジェクトを開始しました。本 学初のクラウドファンディングプロジェクト「小児 重症心不全患者を救いたい!超小型人工心臓の開 発」は、子どもたちがドナーを待つ期間も安心して 過ごせるように、超小型磁気浮上モータを用いた、 長期間使用できる耐久性の優れた小児用体内埋込 型人工心臓の開発を目指しています。

本プロジェクトの開始に際しては、令和3年度第2回定例記者会見における発表などの積極的な情報発信の結果、群馬テレビや上毛新聞をはじめとした県内メディアを含む各種メディア(計88件)に取り上げられたほか、県内の産官民の各種団体における積極的な講演の実施などにより高い関心を集めたことで、当初目標の700万円を大幅に上回る3,098万円(寄附者760名)の寄附を受け入れることができました。



本学初のクラウドファンディングプロジェクト

●りょうもうアライアンスの活用により依頼分析件数増加 **学長ビジョン ⑧**⑨①



「りょうもうアライアンス」の活動をコロナ禍の影響で縮小せざるを得ない環境下で、機器分析センターの外部依頼分析は 76 件 479 万円 (令和 2 年度)、75 件 485 万円 (令和 3 年度)となり、令和元年度(87 件、525 万円)から約 8%の減少に食い止めました。その結果、第 2 期中期目標期間(平成 22~27 年度)の 41 件、406 万円から、第 3 期中期目標期間(平成 28~令和 3 年度)の 350 件、2,211 万円と大幅に増加しました。

なお、企業からの分析依頼時、企業への結果報告時には、分析機器の特徴・原理・グラフやスペクトルの読み方、試料調製の注意点・コツ等も含めて説明し、また質問にも分かりやすく回答しており、リカレント教育の一端を担いました。

(左図) 分析装置の一例 核磁気共鳴装置(NMR)

●ESCO 事業の実施等によりエネルギー消費量 及び温室効果ガスを大幅に削減

学長ビジョン ①

令和 2 年度に昭和キャンパスにおいて、民間のノウハウ、資金、経営能力及び技術的能力を活用する管理一体型 ESCO (Energy Service Company)事業を導入し、省エネルギーの推進、環境負荷の低減及び光熱水費等の効果的な削減を図りました。ESCO事業等の取組効果により、全学では平成 28 年に策定した「エネルギー消費量削減計画 (平成 28~令和 2 年度)」において、エネルギー消費量原単位を 5 年間で平成 27 年度比 5%以上削減するという目

標に対し、17.9%削減と大きく上回りました。温室効果ガスについても政府目標である「2030(令和12)年度までに2013(平成25)年度比50%削減」に向け、照明器具のLED化や空調の高効率機器への更新により、令和2年度までに平成25年度比で25%削減しました。

また、令和3年3月に新たな「エネルギー消費量削減計画(令和3~7年度)」を 策定し、令和元年度のエネルギー消費量原単位から1%減じた数値を基準とし、5年 間で原単位を5%以上削減することを目標として掲げています。計画の初年度にあ たる令和3年度は、エネルギー消費量原単位を令和元年度比7.1%削減しました。



ガス式の冷温水発生機を、電気式 の高効率な磁気軸受ターボ冷凍機 に更新。更新前の設備に比べ、約3 倍の高効率運転が可能に

令和3年度のトピックス ≪附属病院に関する取組≫

DCOVID-19対応と高難度医療提供を両立

附属病院は、群馬県新型コロナウイルス感染症重点医療機関及 び群馬県新型コロナウイルス感染症疑い患者受入協力医療機関に 指定されており、群馬県からの要請に基づいた COVID-19 対応の ための病床確保や十分な感染対策による診療体制の整備を実施す るとともに、特定機能病院として附属病院が本来担うべき高難度 医療提供及び中核病院としての地域医療の堅持に努めました。

また、群馬県独自に創設したクラスター発生現場で濃厚接触者 の特定や有症者の把握などに一体的に取り組む対策チーム「C-MAT | として感染管理認定看護師を中心に医師・看護師・事務の 人員派遣に協力するなど、附属病院外での地域の COVID-19 対応 人工呼吸器が装着された新型コロナウイルス感染症重症 に貢献しています。



患者を腹臥位療法のため体位変換する様子

●群馬県における新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に協力

群馬県が実施した新型コロナウイルスワクチンの集団接種に協力するため、令和3年6月から10月までの間、 県営ワクチン接種センターに医療従事者を派遣しました。また、令和3年6月に群馬県と群馬県臨床検査技師会 の共催の臨床検査技師によるワクチン接種のための実技研修会において、附属病院の臨床検査専門医が監修や講 師を担当し、6月26日から全国で初めて臨床検査技師によるワクチン接種を開始しました。令和3年11月には、 県営ワクチン接種センターの運営に協力し、県民への新型コロナウイルスワクチン接種の推進に寄与したことに 対して、群馬県知事から感謝状が授与されました。



(上図) 群馬県知事による感謝状授与 (右図) 群馬大学による群馬モデルの職域接種



また、令和4年1月からは、新型コロナ ワクチン追加接種(3回目)への協力を中 心に、県営ワクチン接種センターに医療従 事者を派遣しています。(予約枠担当数(~ 令和 4 年 3 月) ※: 医師 2,184 回、看護師 6,233 回、薬剤師 1,671 回)

※予約枠担当数

県営ワクチン接種センターでは、各日午前、 午後、夜間に分けて、予約枠を設け新型コロナ ウイルスワクチン接種を行っています。この予 約枠ごとの担当数をいいます。

■がんゲノム医療連携病院の指定

がんゲノム医療を受けられる施設は厚生労働省により指定 されており、附属病院では、がんゲノム医療連携病院として令 和3年4月に認定されました。令和3年6月からがんゲノム外 来を開始し、遺伝子パネル検査による医療の提供及びがんゲノ ム医療に関する情報提供等に取り組んでいます。

※「がん遺伝子パネル検査」とは

がんの発症に関係する遺伝子のうち治療薬 の効果に関連するものや、がん種の診断に関連 するものなど数百の遺伝子を一度に調べる検 査です。多くの遺伝子を一度に調べることで、 短期間で一人ひとりの患者さんの病気に合わ せた治療薬が見つかることが期待されます。

※ 特定看護師とは

特定看護師は、特定行為研修を修了 した高度な知識と判断力を備えた看護 師の当院での呼称です。医師と共に予 め作成した手順書に基づき、その範囲 内であれば気管チューブや点滴薬剤の 調整ができるなど、より難易度が高い 診療の補助行為を行うことができま す。

●看護師の特定行為研修を行う指定研修機関に指定

附属病院では、看護師の特定行為研修指定研修機関(看護師が手順書 により特定行為を行う場合に特に必要とされる実践的な理解力、思考力 及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能の向上を図るための研 修)として、令和3年4月から受講生1名の受入を開始しました。

また、令和4年3月から、手術部の看護師2名が特定看護師として特 定行為(術中麻酔管理領域)の実施を開始しました。今後、看護師のキ ャリアアップに資することはもちろん、医師の働き方改革を進める中で 看護師へのタスク・シフティングとしても期待できます。

■インシデント報告文化の醸成

附属病院では、インシデント報告の分析と現場へのフィードバックを継続して行っています。全インシデント報 告に占める医師の報告比率は15~20%を維持しており、インシデント報告の文化が醸成されているといえます。

インシデント報告の分析に基づいて、既存ルールの周知徹底、業 務手順・ルールの変更などによる安全強化を図っており、一例と して、中心静脈カテーテル抜去時の手順制定や、抗血栓療法の休 薬に関する考え方の改訂を行いました。

また、医療安全文化調査によると職員の安全に対する意識が 年々高まっていることがわかります。特に、「上司の医療安全に対 する態度や行動 | は6年連続全国1位、インシデントの報告され る頻度は6年連続全国3位以内となっています。



	安全管理部	初回おすすめ	
コース名			カテゴリー
o1-o8 KCLの誤投与			薬剤
02-06 外来での患者取り違えによる誤注射			治療・処置
02-07 手術部位の左右取り違え			治療・処置
o2-o8 RRSでコードブルーを防げ!			治療・処置
02-09 中心静脈穿刺時のトラブル			治療・処置
02-11 画像診断報告書の確認不足			治療・処置
03-02 セントラルモニタ受信患者間違い			医療機器等
04-01-1 輸血用血液製剤の取り違え「事例」	_		輸血
05-02 経鼻胃管の誤挿入			ドレーン・チューブ
07-01 転倒・転落			療養上の世話

SafetyPlus コース画面抜粋

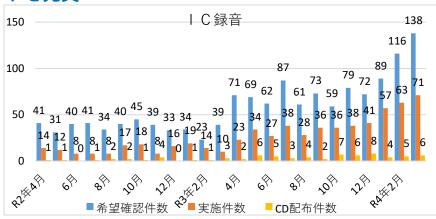
●医療安全職員研修のオンデマンド配信

医療の質・安全学の最新の動向を反映させた医療安全職員研修につい て、令和 2、3 年度に 13 のコンテンツをオンデマンドで配信し、延べ 15,000 名が受講しました。また、新規採用・再採用・復職者に対しても 同様に研修を実施し、全ての対象職員が受講しています。

研修にはエルゼビア社の SafetyPlus を導入し、当院独自のコンテンツ のみならず既存の充実したコンテンツの中から、必要に応じて自身で選 択して受講することができます。また、フリースペースを利用して医療 安全以外の研修も掲載することで幅広く利用されています。

●インフォームド・コンセントを充実

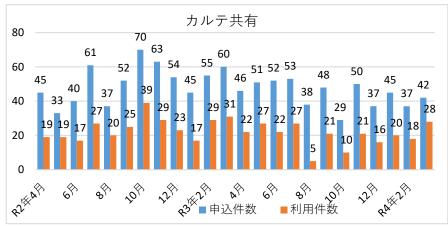
インフォームド・コンセント (IC) の 充実のため、看護部と協働し、説明同意 文書の点検並びに看護師の同席を推進 しており、令和3年度の看護師のIC同 席率は 95.3%となったほか、入院患者 への IC 取得にあたっての説明時の同 席率、患者の反応等を調査し、ICの充 実に活かしています。また、IC 録音制 度の効果について、IC の質評価、音声 認識による入力作業の軽減に向けた検 討を開始しました。



●患者参加型医療を推進するためにカルテを共有

患者参加型医療を推進するために、入院患者のカルテ閲覧制度を実施しており、令和2年4月から令和4年3 月末までに 516 名が閲覧しています。令和 3 年 12 月からは閲覧可能時間の拡大(変更前:平日 9 時から 16 時

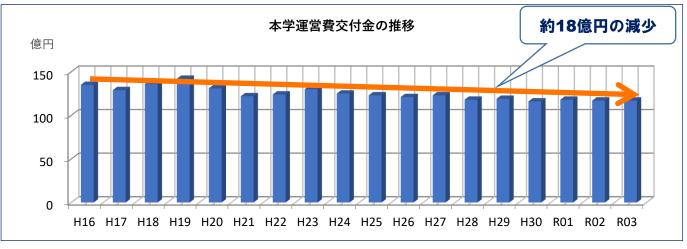
まで、変更後:前日9時から21時ま で) や、ベッドサイドでも閲覧でき るようにし、これまで以上に気兼ね なく利用できる体制を整備しまし た。継続的にカルテ閲覧制度に関す る患者向けアンケートを実施してい るほか、令和3年6月に職員向けの 意識調査を実施しました。この結果 を病院情報システムや院内医療安全 情報で職員に共有し、カルテ閲覧制 度が医療の質・安全、患者満足度の 向上につながるよう継続的に啓発活 動を行う予定です。



●運営費交付金の状況

国立大学が我が国の人材養成・学術研究の中核として継続的・安定的に教育研究活動を実施できるよう、 基盤的経費として交付されるものです。

令和3年度は約117億円本学に交付されていますが、平成16年度(約135億円)と比べると約18億円の減少となり、平成16年度の約13.3%分に相当します。このように、本学の業務運営の基盤となる運営費交付金は減少傾向にあり、この減少分を補うため引き続き安定した自己収入の確保、業務コストの削減、外部資金の更なる獲得に努めています。



●外部資金の状況

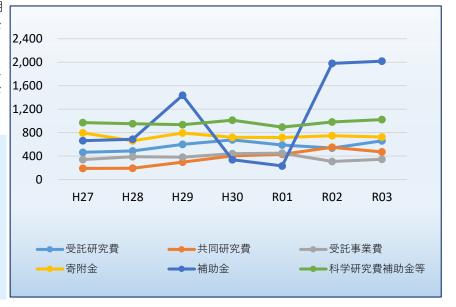
従来から、科研費獲得を目指す研究者(一般・若手・女性)に対する学内研究助成や大型研究費獲得のための重点支援プロジェクト等を学長裁量経費を活用して積極的に行うなどし、外部資金の獲得を促進させています。

なお、令和3年度においては国や県独自の補助金等により、附属病院に対するCOVID-19患者受入用ベッド確保に係る病床確保料やCOVID-19診療用の医療機器整備費等の様々な補助金が交付され(約1,283百万円)、地域の中核医療機関としてCOVID-19対応と高難度医療の提供を両立させることができました。

※外部資金受入額とは、各年度に収入として受け入れた外部資金の額です。P25の外部資金収益は、受入時に債務(負債)で計上したものが、その後の業務実施に伴い収益に振り替わったものになります。

						, , , .	
区分	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
受託研究費	464	487	598	676	588	536	660
共同研究費	189	194	296	402	430	549	470
受託事業費	341	390	382	442	449	308	347
寄附金	795	661	794	721	717	748	726
補助金	661	688	1,436	339	233	1,980	2,017
科学研究費補助金等	972	952	935	1,013	893	980	1,022

(単位:百万円)

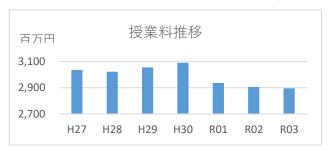


●入学料・授業料の状況

本学では、基本的には学生等に対してできるだけ教育費負担をかけないようにしていくことが重要と考えており、入学料、授業料の単価を平成17年度から増額しておりません。平成16年度の法人化以降、国からの運営費交付金収入の減少や人件費を含む物価の高騰、消費税の増額等による支出の増加などにより年々経営状況は厳しい状況になっておりますが、経費の節減や外部資金収入の増加などを進めることで対応しております。

なお、令和3年度の本学の入学料収入は約4.4億円、授業料収入は約29億円となっております。





★修学支援の強化の一環で入学料・授業料免除を行っています!

本学では、経済的理由で入学料や授業料の納付が困難な学生に対して納付を免除する制度を設けています。 また、優秀な学生の確保及び学生の修学意欲の向上のため、授業料免除(卓越)枠も設けています。国から 交付される運営費交付金が減少傾向にある厳しい財政状況の中においても修学支援の強化に努めています。

令和 3 年度 入学料免除·授業料免除実績

(単位:千円)

学部	区分	入学料免除	授業料免除	授業料免除 (卓越)	授業料免除計	合 計
	学部	6,204	48,073	1,340	49,413	55,617
共同教育学部	専門職学位	0	0	536	536	536
	専攻科	29	137	0	137	166
共同教育	学部計	6,233	48,210	1,876	50,086	56,319
情報学部	学部	5,264	29,380	1,607	30,987	36,251
月取一印	修士	1,692	3,416	536	3,952	5,644
情報学部計		6,956	32,796	2,143	34,939	41,895
	学部	6,486	55,307	3,215	58,522	65,008
医学部	修士	1,410	5,358	1,340	6,698	8,108
	博士	2,538	20,186	1,607	21,793	24,331
医学部	形計	10,434	80,851	6,162	87,013	97,447
	学部	12,032	89,404	3,483	92,887	104,919
■ ■ 理工学部	修士	18,330	61,081	1,607	62,688	81,018
性上于即 	博士	2,256	13,395	1,072	14,467	16,723
	夜間主	0	2,233	0	2,233	2,233
理工学	部計	32,618	166,113	6,162	172,275	204,893
合計		56,241	327,970	16,343	344,313	400,554

●貸借対照表

決算日(3月31日)における財政状況を明らかにするために、決算日における全ての資産、負債及び 純資産を記載し、報告します。 (単位:百万円)

区分	R02	R03	増減							
	<資産の部>									
土地	22,237	22,223	△ 14							
建物	22,986	21,555	△ 1,430							
構築物	991	924	△ 67							
工具器具備品	7,398	6,724	△ 673							
図書	2,972	2,944	△ 28							
現金・預金	8,085	8,857	772							
未収附属病院収入	5,314	5,496	182							
医薬品・診療材料	477	538	61							
その他	3,334	3,955	621							
合計	73,797	73,222	△ 575							

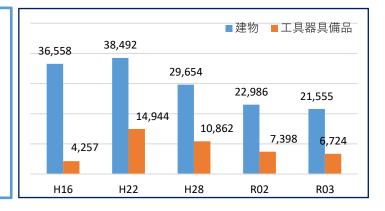
区分	R02	R03	増減
	<負債の部	>	
資産見返負債	8,858	8,972	113
債務負担金	2,203	1,593	△ 610
長期借入金	3,871	3,558	△ 313
寄付金債務	3,713	3,767	54
未払金	8,153	6,901	△ 1,252
その他	3,501	2,765	△ 736
負債 計	30,303	27,558	△ 2,744
	<純資産の部	ß>	
政府出資金	35,617	35,617	0
資本剰余金	△ 4,250	△ 4,948	△ 697
利益剰余金	12,128	14,994	2,865
純資産 計	43,494	45,663	2,168
合計	73,797	73,222	△ 575

※金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

○ 資産 の特筆事項

建物や設備の老朽化が進行

建物や設備の新たな取得もありましたが(下記の 附属病院多機能診療棟新設など)、減価償却累計額は 増加しており、建物や設備の老朽化が進みました。



◇附属病院多機能診療棟新設

本施設は、感染症流行時に診察室として使用するほか、自然災害や大規模事故等の際にトリアージスペースとして使用することを想定し設置しました。通常時は多用途フリースペースとして開放し、バスや送迎車の待合室として利用できます。





○ 負債 の特筆事項

債務負担金・借入金の減少

附属病院の過去の建物等整備に係る債務負担金・借入 金について、返済が進んだことにより減少しています。

●損益計算書

一事業年度(4月1日~3月31日)の運営状況を明らかにするために、実施した事業等により発生した全ての費用と収益を記載し、報告します。

(単位:百万円)

区分	R02	R03	増減
経常費用	47,161	47,449	288
業務費	46,022	46,274	252
教育経費	1,411	1,452	40
研究経費	2,138	2,030	△ 108
診療経費	19,325	19,788	462
教育研究支援経費	510	475	△ 34
受託研究費等	1,018	1,317	299
人件費	21,617	21,210	△ 407
一般管理費	1,002	1,063	60
その他費用	135	111	△ 24
経常収益	48,337	49,922	1,585
運営費交付金収益	11,399	11,156	△ 243
学生納付金収益	3,775	3,734	△ 41
附属病院収益	27,978	29,409	1,431
受託研究等収益	1,150	1,535	384
寄附金収益	677	723	45
資産見返負債戻入	1,255	1,178	△ 77
その他収益	2,100	2,185	84
臨時損益	△ 95	392	487
当期総損益	1,081	2,865	1,784

■教育活動に要する経費 学生1人当たり年間

(教育活動に要する経費/学生数)

981 千円

※教育経費には、人件費及び教育研究支援 経費のうち教育経費相当分を含む

■研究活動に要する経費 教員1人当たり年間

(研究活動に要する経費/常勤教員数)

4,103 千円

※研究活動に直接要する経費のみを示すため、研究経費には受託研究費等を含め、 人件費及び教育研究支援経費は除く





○ 損益計算書 の特筆事項

- ・附属病院の収支が大幅に改善
- ・当期総利益の対前年度比が大幅に増加



附属病院について、令和 2 年度における COVID-19 の影響が落ち着いてくるなどし、令和 3 年度は通常の診療体制に戻りつつある中で病院収支は回復してきています。

●キャッシュ・フロー計算書

一事業年度の資金の調達や運営状況を明らかにするために、資金の流れを「業務活動」「投資活動」「財 務活動」の区分に分けて記載し、報告します。

(単位:百万円)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー

教育・研究及び診療など、大学 の通常業務の実施に伴う資金の 収支状況を表します。

Ⅱ 投資活動によるキャッシュ・フロー

将来の運営基盤を確立するための投資の実施に伴う資金の収支状況を表します。

Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・ フロー

資金調達や返済などに伴う資 金の収支状況を表します。

区分	R02	R03	増減
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	3,568	4,815	1,247
人件費支出	△ 20,668	△ 20,317	351
その他の業務支出	△ 23,390	△ 24,336	△ 946
運営費交付金収入	11,498	11,633	135
授業料等収入	3,087	3,122	35
附属病院収入	27,657	29,161	1,504
その他の業務収入等	5,382	5,552	170
Ⅱ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 57	△ 1,049	△ 992
Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,191	△ 1,993	198
Ⅳ 資金に係る換算差額	_	_	0
V 資金増加額	1,319	1,772	453
Ⅵ 資金期首残高	5,766	7,085	1,319
Ⅷ 資金期末残高	7,085	8,857	1,772

※金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

キャッシュ・フロー計算書のパターンと判定

I. 業務活動:プラスの計上となっており、業務活動が順調に行われたことを表しています。

Ⅱ. 投資活動:定期預金の預入は減少したが、固定資産の取得(投資)等によりマイナスの計上となっています。

Ⅲ、財務活動:リース債務や長期借入金の返済を適正に行っていることにより、マイナスの計上となっています。

	業務 活動	投資 活動	財務 活動	民間企業の場合の判定	備考		
1	+	+	+	△ 不必要な資金調達を行っており、資金に無駄がある状況 -	国立大学法人の場合は施設費の入金と施設整備 による支出のタイミング次第ではありうる		
2	+	+	_	設備投資を抑制する一方、獲得した資金により、借入金を 返済して財務体質の改善を実施している状況	投資した固定資産や有価証券などを売却したタ イミング次第ではありうる		
3	+	_	+	資金獲得の一層の拡大を狙い、積極的な設備投資を行って いる状況	国立大学法人で通常想定されるパターン		
4	+	_	_	◎ 獲得する資金を設備投資や借入金返済に充当している状況			
5	_	+	+	△ 資金不足を資産売却や借入で補てんしている危険な状況			
6	_	+	_	資金不足に加え、借入の返済に迫られ、資産売却で補てん している危険な状況	国立大学法人の場合、附属病院などで赤字を出		
7	_	_	+	資金不足に加え、借入による設備投資を行っている危険な 	した場合には、このようなケースもありうる		
8	_	_	_	× 資金不足で倒産状態			

※それぞれの活動ごとに8パターンの判定が行われ、令和3年度において本学は④のパターンに該当します。

●国立大学法人等業務実施コスト計算書

一事業年度の教育・研究・診療等の業務運営に要した費用(コスト)における、国民負担額(国民の税金で賄われている金額)を表します。

(単位:百万円)

I・・・国からの財源で賄われている コスト

損益計算書上に計上されている業務費用から授業料収入等の自己収入を控除したものです。

Ⅱ ~ 垭···損益計算書上に計上されていないコスト

国から出資された資産の減価 償却費などです。

™···免除若しくは軽減されている コスト

国等の資産利用に関して優遇された相当額です。

	区分	R02	R03	増減
I	業務費用	13,069	11,355	△ 1,714
	損益計算書上の費用 (控除) 自己収入等	47,340 △ 34,271	47,456 △ 36,101	116 △ 1,830
П	損益外減価償却相当額	1,183	1,071	△ 112
III	損益外減損損失相当額	0	△ 187	△ 187
IV	損益外利息費用相当額	1	△ 13	△ 14
V	損益外除売却差額相当額	3	0	△ 3
VI	引当外賞与増加見積額	14	20	6
VII	引当外退職給付増加見積額	△ 175	369	544
VIII	機会費用	38	136	98
IX	国立大学法人等業務実施コスト	14,134	12,753	△ 1,381

[※]金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

●決算報告書

国における会計認識基準(官庁会計)に準じ、現金主義を基礎としつつ出納整理期間の考え方を踏まえて、一部に発生主義を取り入れ、国立大学法人等の運営状況を収入・支出ベースで報告します。

(単位:百万円)

区分	R03 予算額	R03 決算額	増減
収 入	46,372	50,353	3,981
運営費交付金収入	11,628	11,792	164
補助金等収入	541	2,016	1,475
授業料等収入	3,457	3,429	△ 27
附属病院収入	27,479	29,162	1,683
その他収入	3,268	3,952	685
支 出	46,372	48,100	1,728
教育研究経費	13,520	12,856	△ 663
診療経費	28,704	29,364	660
その他支出	4,147	5,879	1,731
収入-支出	_	2,253	2,253

※金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

主な増減内容

運営費交付金収入

補正予算等の追加交付、前年度からの繰越金の計上により 164 百万円増額となっています。

補助金収入

予算段階で予定していなかった国等からの交付により、1,475百万円増額となっています。

附属病院収入

新たな施設基準の取得等により 1,683 百万円増 額となっています。

その他収入

予算段階で予定しなかった保険金収入の増加や 診療報酬自主返還金の引当金取崩額の増加等によ り 685 百万円増額となっています。

診療経費

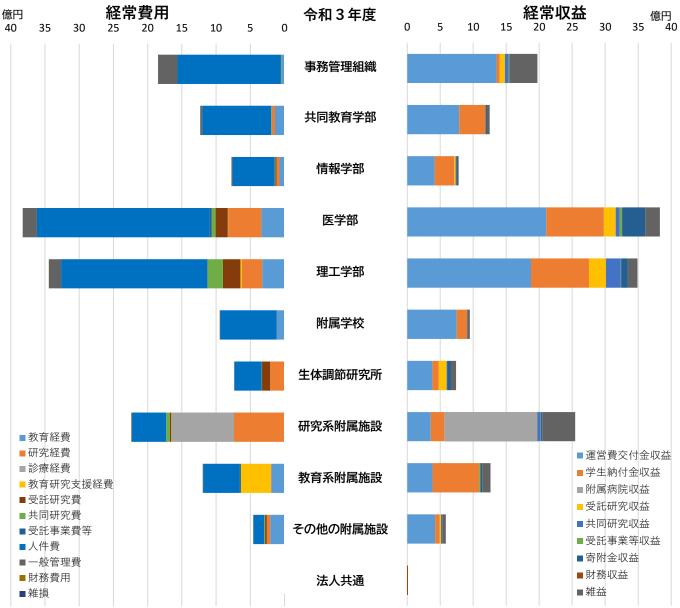
診療報酬自主返還額の増加、診療増加に伴う医療費の増加等により660百万円増額となっています。

その他支出

上述の補助金等の増加等により 1,731 百万円増 額となっています。

●セグメント情報

本学では、平成 30 事業年度より詳細な財務情報を開示するため、財務諸表(附属明細書)において、 従来の大学セグメントのうち、学部研究科等のセグメント情報を個別に開示しています。



※研究系附属施設とは、重粒子線医学推進機構、未来先端研究機構、研究・産学連携推進機構により構成されています。 ※教育系附属施設とは、総合情報メディアセンター、大学教育・学生支援機構、国際センターにより構成されています。 ※その他の附属施設とは、数理データ科学教育研究センター、食健康科学教育研究センター、ダイバーシティ推進センター、国際交流会館、学生寮、学生研修施設等により構成されています。

各セグメントの業務損益の経年表

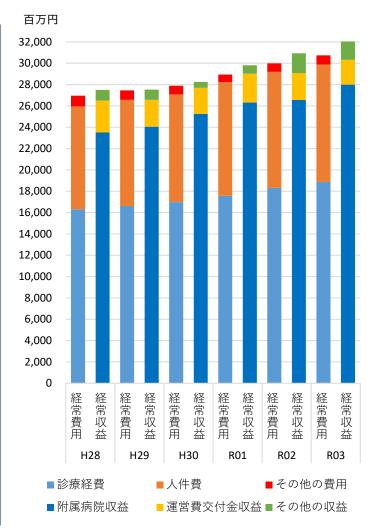
(単位:百万円)

区分	令和元年度	令和 2 年度	令和3年度	区分	令和元年度	令和 2 年度	令和3年度
附属病院	883	947	1,751	附属学校	0	△ 1	1
事務管理組織	△ 228	△ 25	131	生体調節研究所	2	3	6
共同教育学部	20	△0	17	研究系附属施設	229	205	306
社会情報学部	△0	△ 2	3	教育系附属施設	80	35	66
医学部	△ 28	△ 30	3	その他の附属施設	6	11	126
理工学部	△ 14	22	44	法人共通	9	11	13
学部研究科等小計	△ 23	△ 10	69	合 計	959	1,176	2,473

●附属病院セグメント情報

損益計算書(附属病院セグメント)

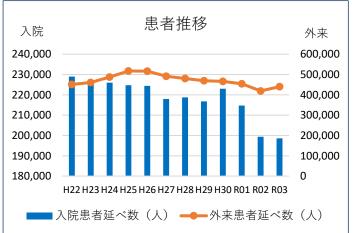
		(単位:百万円)
区分	R02	R03
経常費用	30,000	30,759
業務費	29,629	30,320
教育経費	8	10
研究経費	154	150
診療経費	18,316	18,874
受託研究費等	24	36
受託事業費	241	235
人件費	10,878	11,006
一般管理費	243	332
その他費用	133	105
経常収益	30,947	32,511
運営費交付金収益	2,522	2,326
附属病院収益	26,560	28,003
受託研究収益等	24	38
受託事業収益	283	316
寄附金収益	134	120
その他収益	1,421	1,705
経常利益	947	1,751
臨時損益	△ 79	127
目的積立金取崩額	-	-
当期総利益	867	1,879

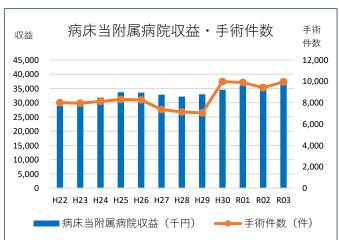


附属病院においては、診療に要する経費や病棟整備等に係る借入の返済を自己収入により賄うなど、経営努力が 求められております。これまで診療単価を向上させるための取組などを実践したことで、病院収益は年々増加して きましたが、高度かつ先進的な医療の実践には、医薬品費・材料費のみならず、医療スタッフや診療設備の整備の ための経費も増加し、病院の経営状況は厳しくなっています。

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症患者受入のための病床確保や院内感染防止策、一般診療制限等を講じたことによる大幅な経営悪化が見込まれましたが、診療体制整備による新たな診療報酬点数の獲得や補助金などの財政支援を活用したことにより、経営を継続し附属病院が果たすべき地域医療に貢献することができました。

≪参考データ≫



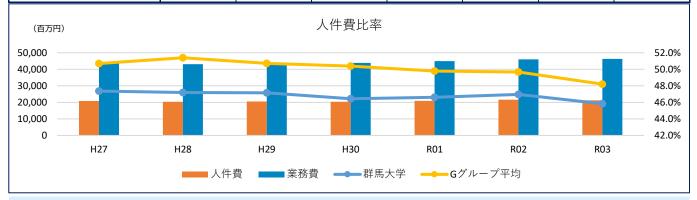


▶人件費比率 《人件費÷業務費》

業務費に占める人件費の割合を示す指標。この比率が高いほど学内の教育・研究・診療等の業務が主 に教職員等の人材に依っていると解釈できます。

(単位:百万円)

			H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
人	件 費	率	47.4%	47.2%	47.2%	46.4%	46.6%	47.0%	45.8%
人	件	費	20,797	20,340	20,519	20,386	20,972	21,618	21,210
業	務	費	43,902	43,090	43,511	43,896	44,993	46,022	46,274



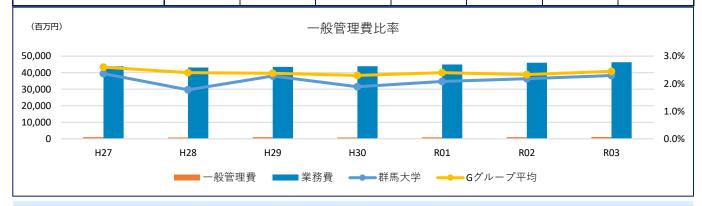
昨年度に比べ、人件費比率は減少しており、依然として G グループの平均よりは低い傾向にあります。

※国立大学法人は便宜上,全国86大学を各大学の規模等を踏まえAからHまでの8つのグループに分類しており,本学はGグ ループに属しております。G グループは、附属病院を有する中規模の25大学のことで、弘前、秋田、山形、群馬、富山、金沢、 福井,山梨,信州,岐阜,三重,鳥取,島根,山口,徳島,香川,愛媛,高知,佐賀,長崎,熊本,大分,宮崎,鹿児島,琉球 の各大学法人となります。但し、令和 2 年度以降は国立大学法人東海国立大学機構が設立された関係で岐阜大学を除いた 24 大 学の平均値となっています。

-般管理費比率 《一般管理費÷業務費》

業務費に占める一般管理費の割合を示す指標。この比率が低いほど望ましいと言えます。 (単位・百万円)

								(十四・ログリン)
		H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
_	般管理費率	2.4%	1.8%	2.3%	1.9%	2.1%	2.2%	2.3%
_	般管理費	1,039	766	992	828	937	1,003	1,063
業	務費	43,902	43,090	43,511	43,896	44,993	46,022	46,274



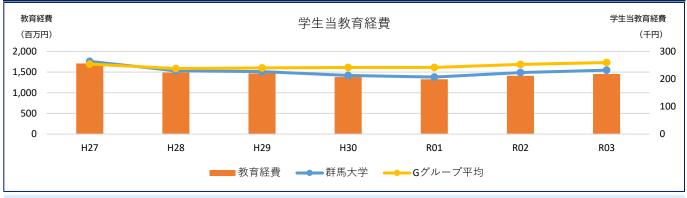
昨年度に比べ、空調設備等修理に伴う修繕費の増加により、一般管理費比率は若干増加したものの、依然とし てGグループの平均よりは低い傾向にあります。

●学生当教育経費 《教育経費÷学生数》 ※人件費は含まれておりません。

学生1人当たりの教育経費を示す指標。この数値が高いほど学生1人当たりにかけられた教育目的の 物件費等が大きいと解釈できます。

(教育経費単位:百万円)

				H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
学组	E当	教 育	経 費	264 千円	230 千円	227 千円	213 千円	207 千円	223 千円	232 千円
教	育	経	費	1,709	1,490	1,468	1,382	1,325	1,412	1,452
学	<u>/</u>	生	数	6,475	6,483	6,473	6,480	6,395	6,326	6,256



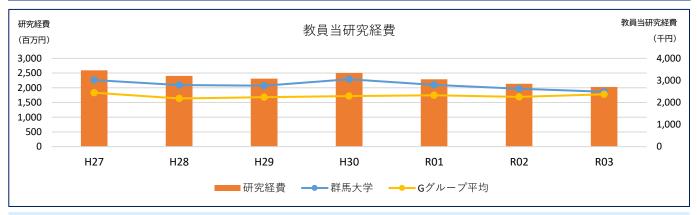
コロナ禍における奨学費の増加、オンライン授業のための環境整備及び附属学校の GIGA スクール対応 (タブレット購入等) 等により、昨年度から引き続き学生当教育経費が増加しました。

●教員当研究経費 《研究経費÷常勤教員数》 ※人件費は含まれておりません。

教員1人当たりの研究経費を示す指標。この数値が高いほど教員1人当たりにかけられた研究目的の 物件費等が大きいと解釈できます。

(研究経費単位:百万円)

					H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
教	員 当	研	究紹	E 費	3,019 千円	2,792 千円	2,763 千円	3,055 千円	2,800 千円	2,627 千円	2,488 千円
研	究		経	費	2,594	2,407	2,312	2,505	2,293	2,139	2,031
常	勤	教	員	数	859	862	837	820	819	814	812



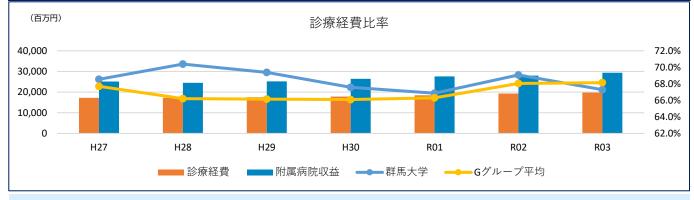
固定資産の老朽化による減価償却費の減少やコロナ禍による研究旅費の減少等により、昨年度と比べ、教員当研究費は減少しましたが、依然 G グループ平均よりはやや高い傾向にあります。

●診療経費比率 《診療経費÷附属病院収益》

人件費を除く診療活動に要する経費が病院収益に占める割合を示す指標。この比率が低いほど病院の 収益力が高いと解釈できます。

(単位:百万円)

		H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
診	療経費比率	68.5%	70.4%	69.4%	67.6%	66.9%	69.1%	67.3%
診	療 経 費	17,199	17,250	17,506	17,876	18,478	19,326	19,788
附	属病院収益	25,091	24,506	25,228	26,450	27,633	27,978	29,410

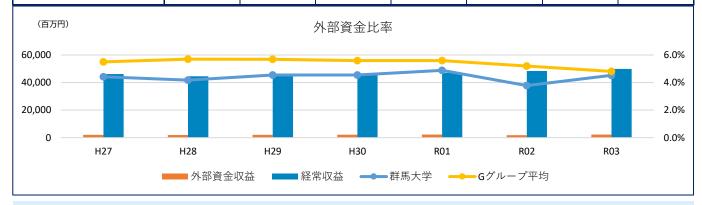


診療経費においては、診療体制の効率化や医薬品・医療材料等の契約単価抑制、ESCO 事業による光熱水費の 減少等の経費節減を行っており、附属病院収益も昨年度と比較して通常の診療体制に戻りつつあり増加している ため診療経費率は減少しました。

●外部資金比率 《(受託研究等収益+受託事業等収益+寄附金収益)÷経常収益≫

経常収益に占める外部資金の割合を示す指標。運営費交付金等、公的財政支援が厳しい状況下では、この 比率が上昇することが望ましいと言えます。 (単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
外 部 資 金 比 率	4.4%	4.2%	4.6%	4.6%	4.9%	3.8%	4.5%
受託研究等収益	687	681	861	948	1,107	795	1,140
受託事業等収益	460	426	427	451	434	356	395
寄 附 金 収 益	890	752	770	718	753	678	724
経 常 収 益	46,168	44,518	45,241	45,781	46,989	48,338	49,923



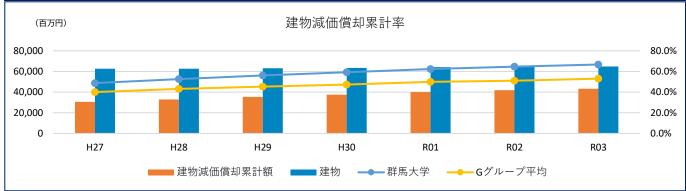
コロナ禍で抑制された外部資金の予算執行(業務実施)が回復傾向となり、外部資金収益(業務の実施に伴い 収益化)は増加したことで外部資金比率も増加しましたが、依然として G グループ平均より低い傾向にありま す。

●建物減価償却累計率 《建物減価償却累計額÷建物》

建物の残存価値の割合を示す指標。この数値が小さいほど残存価値が高く、施設が新しいと解釈でき

ます。 (単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
建物減価償却累計率	48.8%	52.6%	56.1%	59.3%	62.3%	64.6%	66.7%
建物減価償却累計額	30,535	32,933	35,389	37,585	39,966	41,917	43,203
建物	62,633	62,588	63,036	63,414	64,195	64,903	64,758

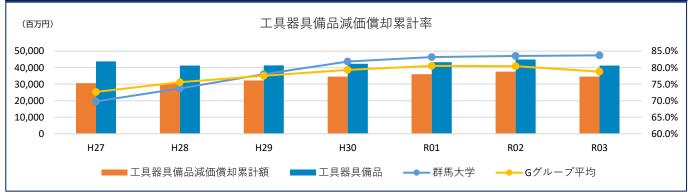


我が国の依然として厳しい財政状況から、国から支援される施設整備費が国立大学全体で減少傾向にあり、施設の老朽化が進んでいます。なお、本学は他大学に比べ病院の再開発などの時期が早いこともあり、G グループ平均よりも老朽化が進んでいます。

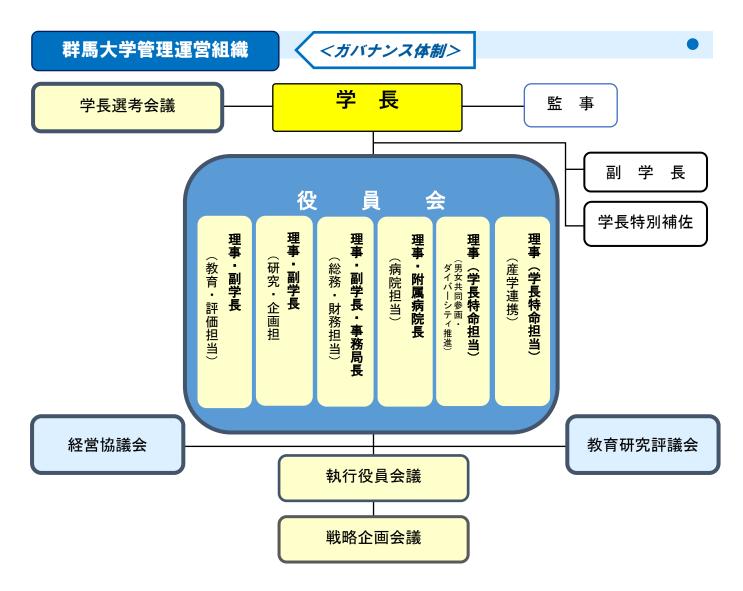
●工具器具備品減価償却累計率 《工具器具備品減価償却累計額÷工具器具備品》

工具器具備品の残存価値の割合を示す指標。この数値が小さいほど残存価値が高く、設備が新しいと解釈できます。 (単位: 百万

	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
工具器具備品減価償却累計率	69.8%	73.7%	78.0%	81.9%	83.2%	83.6%	83.7%
工具器具備品減価償却累計額	30,580	30,460	32,306	34,631	36,001	37,590	34,600
工具器具備品	43,811	41,322	41,407	42,299	43,263	44,988	41,325



我が国の依然として厳しい財政状況から、国から支援される設備費が国立大学全体で減少傾向にあり、また各大学の経営状況も厳しく、教育、研究及び診療等の設備の老朽化が進んでいます。なお、本学はとりわけ平成27年度以降に附属病院の経営がより厳しい状況となり、医療機器の更新が大幅に遅れたことなどから、Gグループ平均より老朽化が進んでいます。



令和3年4月現在

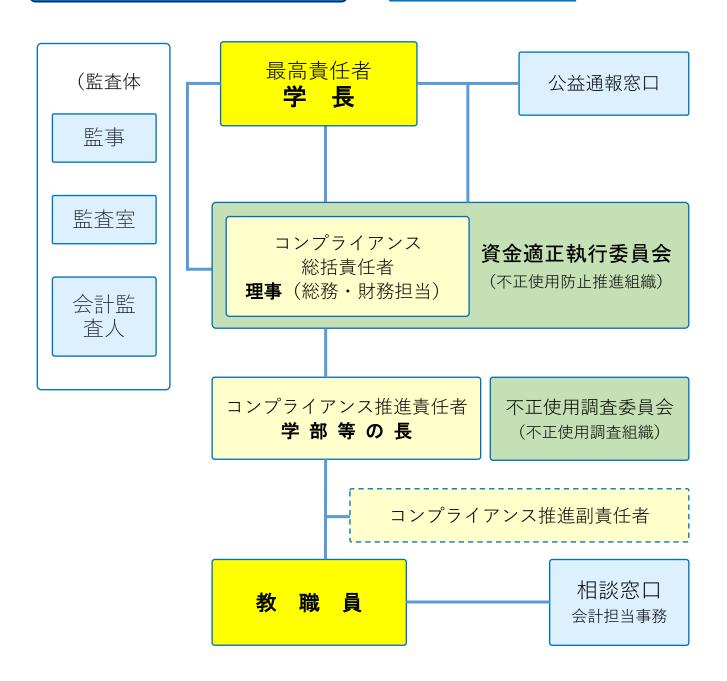
○ガバナンス体制

国立大学法人法に基づき、大学の重要事項を審議する機関として、役員会、経営協議会、教育研究評議会を設置しています。

○学内資源配分について

国の政策や地方公共団体、地元産業界等との意見交換などから得られる社会ニーズ等を踏まえ学長が施策の検討を指示し、学部等が取組の企画を提案します。学長は提案に対し、取組実績(成果)や事業計画等について学部等からヒヤリングを実施し、評価を踏まえた取組の選定、取組毎の予算配分の決定をしています。

- ○国立大学法人の学長は学長選考会議で選考され、法人の申し出に基づき、文部科学大 臣が任命します。
- ○役員会は学長及び理事等で構成され、大学の重要事項や業務に関する学長の決定事項 について審議します。
- ○経営に関する重要事項を審議する機関として経営協議会が設置され、学長、学外委員 7名、学内委員5名で構成されています。
- ○教育研究に関する重要事項を審議する機関として教育研究評議会が設置され、学長、 理事等、各部局の長、教員等で構成されています。



群馬大学の構成員には、社会からの信頼と負託に誠実に応えるべき責務が求められています。独創的な科学研究を展開するとともに、基礎科学と実践的・実学的研究との融合を図りつつ、時代と社会の要請に応じた新しい知の創造を目指している群馬大学にとって、特に研究資金は大変重要なものです。この研究資金を群馬大学が適正に管理するとともに、研究者自らが有効且つ適正に使用し社会倫理に基づき科学研究活動を推し進めてこそ、群馬大学が掲げる目標の達成に繋がるばかりでなく、社会からの信頼と負託に応えることとなります。

群馬大学基金の概要

<本学を応援願います!>

●群馬大学基金の活用事業

群馬大学における学生に対する支援、教育研究の質の向上および社会貢献活動の充実等を図ることを目 的とし、次に掲げる事業を実施します。

1. 学生の修学支援に資する事業



- 経済的理由により修学が困難な学生に対する
- ・ 奨学金の給付
- ・海外留学に係る費用の一部補助 等

2. 大学運営全般に係る事業



- ・教育研究の支援
- 国際交流の推進
- ·社会貢献活動の充実
- ・教育研究環境の整備充実 等



・我が国で初めての大学附属病院に併設され た重粒子線照射施設として、体に優しい先 端的がん治療を推進するための事業

3. 重粒子線治療の普及・発展に資する事業

4. 学生等への研究等支援に資する事業



- 学生又は不安定な雇用状態にある研究者(ポスドク 等)を対象とした
- ・公募プロジェクトにおける研究活動に要する費用補助
- ・研究活動の成果発表に関する必要なものの補助
- ・研究者の資質及び能力向上のための研究者間交流 の促進 等

5. ウクライナ学生・研究者受入支援事業※



- 教育・研究活動の継続支援
- ・渡日費用の支援(渡航費用、ビザ取得費用など)
- ・生活支援(宿舎費用、食費など)
- ・カウンセリング、日本語学習支援 等

6. 創基150周年記念事業※



- ・創基150周年記念式典、講演会の開催
- ・ホームカミングデーの開催
- ・各種シンポジウムの開催
- ・記念グッズの作成 等

※上記5及び6の事業は、令和4年10月から新たな事業として追加しました。

●令和3年度の大学基金受入状況及び活用事例

事業区分	受入件数	受入額(千円)	支出額(千円)	備考
学生の修学支援に資する事業	227	14,468	8,390	
○緊急学生支援奨学金給付			5,750	50 千円×115 人
○経済的困窮学生への奨学金給付			2,400	200 千円×12 人(大学院生)
〇留学(派遣)経費補助事業			240	30 千円×8 人(オンライン留学)
大学運営全般に係る事業	100	4,616	1,690	受取利息 5 千円含む(受入額)
○学生の食に対する支援			1,320	5千円×264人
○国費外国人留学生受入支援			370	留学生の滞在諸費用補助
重粒子線治療の普及・発展に資する事業	34	3,112	0	
学生等への研究等支援に資する事業	53	13,401	0	令和3年3月から受入開始
クラウドファンディング事業 <mark>※</mark>	775	30,980	5,182	令和3年10月から受入開始
○「小児重症心不全患者を救いたい! 超小型人工心臓の開発」			5,182	試作1号機の開発 クラウドファンディング業者手数料含む
승 計	1,189	66,577	15,262	

※クラウドファンディング事業は、令和4年10月から大学基金とは別に独立した事業として整理しました。

●「新型コロナウイルス感染症に伴う学生支援事業」に係る給付を受けた学生の声

★緊急学生支援奨学金給付(5万円を115人に給付)を受けた学生の声

私のアルバイト先は飲食店で、新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により、アルバイトができなくなる時期がありました。アルバイトができなかった時期は仕送りに頼るしかなく、なるべく無駄遣いをしないよう計算し節約しながら過ごしていました。その時に、群馬大学緊急学生支援奨学金を申請しました。お金を頂くことはありがたいことであると同時に、お金の使い方や大切さについても学ぶことができました。生活をするうえでお金は大切です。お金がないという理由で大学生活を送れないという事態を防ぎ、救ってくださったことに感謝しかありません。

<社会情報学部 3年生>

この度は緊急学生支援奨学金を支給していただきありがとうございました。私は両親からの仕送りはなく、アルバイトの収入のみで生活しております。濃厚接触者の疑いがあり、アルバイトを控えなければならない状況になってしまい生活を送ることが困難になってしまうと思っていた際、今回の給付金のお話を伺い、支給していただきました。コロナウイルスに感染しているかもしれないという不安に加えて、生活費のことも考えていたので給付金のお話を聞いた際にはとても安心しました。この給付金がなければ今後アルバイトを行う頻度が多くなり、学習面で悪い影響が出ていた可能性がありました。現在学習を行うことの出来る環境を作っていただき誠に感謝しております。これからも勉学に励んでまいります。

<情報学部 1年生>

★学生の食に対する支援(5千円を264人に給付)を受けた学生の声

- ◆ご支援に感謝します。毎日の食はシビアな問題なので、とても助かります。
- ◆非常にありがたいです。食費にかけようとしていた分を他の諸経費に充てられるので助かります。
- ◆実家を離れ、一人暮らしをしており、生活費の中で食費に最も多くのお金を使うため、この支援は非常にありがたいです。大切に使わせて頂きます。ありがとうございます。
- ◆コロナ禍の影響でアルバイトもできず、困窮していたのでとても有難いです。ありがとうございます。
- ◆これから国家試験の勉強で大学の施設を使うことも増えてくるため、自宅での食事が減ることによる金 銭面のちょっとした不安が非常に和らぎました。ぜひ学生食堂を利用したいと思います。
- ◆経済的に厳しい状況であるため、このような支援を受けることができ、とてもありがたいです。対面授業も増えてきているため、大学で学食を利用する機会も多くなり、食費もかかるため、今回の支援でこれからも学食を活用していきたいです。
- ◆対面授業がある際には学食で食事を取っており、また勉強に集中するためには食事は欠かせないためこのような支援は嬉しいです。
- ◆非常に助かる支援で嬉しいです。このような支援をしていただける大学に在籍できてよかったと思います。
- ◆この様に支援してくださる方々に感謝し、今後も大学生活に励んで参りたいと思います。美味しい学食 を食べ、精一杯頑張り、支援に応えられる様、成長したいと思います。
- ◆コロナ渦でお互いに大変な状況の中にもかかわらず支援をしていただけて本当に感謝しています。
- ◆2年生になって登校できるようになり、学食を使う機会が出来て嬉しかったので、こういった支援をして頂けるのはありがたいです。
- ◆現在1人暮らしを行っているのですが、コロナウイルスの影響で実家に帰省する機会が少なくなり、栄養バランスの悪い食事が多くなっていました。栄養面と金銭面からこのような支援を行って下さり、大変感謝しております。

基金への寄付金の申込方法や寄付に係る税法上の優遇措置など詳細について専用サイトでご覧いただけます。

群馬大学基金 web サイト https://kikin.gunma-u.ac.jp/

群馬大学基金

Q

基金に関するお問合せ先: 総務部総務課広報係(基金事務室) TEL:027-220-7018 Email:kikin@jimu.gunma-u.ac.jp

<本学の規模感>

敷地面積

632,034 m (8,696 m)

荒牧キャンパス(前橋市) 255,763 ㎡ 昭和キャンパス(前橋市) 161,631 ㎡



桐生キャンパス(桐生市) 103,021 ㎡ 太田キャンパス(太田市) (8,696 ㎡)

> その他の地区 (前橋市、桐生市、 渋川市、長野原町) 111,619 ㎡

※()内の数字は借用面積で外数※令和4年5月1日現在



学部・大学院等

4 学部

5 研究科・学府

1 専攻科

共同教育学部 情報学部 医学部 理工学部

教育学研究科 社会情報学研究科 医学系研究科 保健学研究科

理工学府

特別支援教育特別専攻科



27 診療科

病床数 **731** 床

診療科数

外来患者数 入院患者数 **439,672** 人 **198,520** 人

※令和3年度年間述べ患者数



学生数 **7,503** 人

- ・学 部 5,048 人
- ・大 学 院 1,228人
- ・専攻科 6人
- ·附属学校 1,176人
- ・聴 講 生 等 45 人

※令和4年5月1日現在



教職員数

2,405 人

- ・役 員 6人
- ・教 員 904人
- ・職 員 1,495人
- ※令和4年5月1日現在 ※非常勤は含まない。



図書館蔵書数 606,094 冊

- ・中央図書館(荒牧)328,220冊
- ・医学図書館(昭和)128,473冊
- ・理工学図書館(桐生)149,401冊
 - ※令和4年5月1日現在

建物面積

329,995 m (5,142 m)

荒牧キャンパス(前橋市) 47.398 m 昭和キャンパス(前橋市) 178,263 m (581 m)



桐生キャンパス(桐生市) **68,067** m 太田キャンパス(太田市) (4,561 m)

> その他の地区 (前橋市、桐生市、 渋川市、長野原町) **36,267** m

※()内の数字は借用面積で外数 ※令和4年5月1日現在



学部入学者出身 地区別内訳数

- 北海道15 人·四 国 4人 ·東 北 **52** 人·中 国
- · 関 東 903 人·九 州
- ·中 部 120 人·沖 縄
- ・近 畿 12 人・その他
 - ※令和4年5月1日現在



学位授与者数 (累計)

88,053 人

- ・学 部 68,805人
- ・修 士 12,298人
- ・博士 4,253 人
- ・その他 2,697人

※令和4年5月1日現在



科学研究費 補助金

646 件 1,021 百万円

- ·間接経費 223 百万円

※令和3年度決算値



国際交流協定数

111 校

- ・大学間協定 33 校
- · 学部間協定 78 校



※令和4年5月1日現在



223 _人

ジ ア 10 か国 1 地域 217人

- ・アフリカ 2か国 3人
- ・中 近 東 1 か国
- ・ヨーロッパ 2か国 2人

※令和4年5月1日現在

学生の海外派遣数

21 か国 1 地域へ



→ 204 人

- ・ア ジ ア 10 か国 1 地域 105人
- ・オセアニア 2か国 35 人
- 25 人 米 1 か国
- ・ヨーロッパ 8か国 39人
- ※平成 31 年 4 月

~令和2年3月派遣



群馬大学 キャッチコピー 「群を抜け 駆けろ 世界を|

群馬大学で思い切り学び、経験し、地域から世界に飛び出していって欲しいという、学生へのメッセージを込めました。何かを気にすることなく自ら決めた道で目指す学問を追い、どこまでも伸び、どんどん抜きんでて良い。疾走する馬のような勢いと真っ直ぐさを持って、地域から世界を駆け回る人材を育てたいというイメージです。

国立大学法人群馬大学 財務レポート Gunma University Financial Report 2022

発 行:国立大学法人群馬大学財務部財務課 所在地:群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地

電 話: 0 2 7 - 2 2 0 - 7 0 5 5 e-mail: yosan@jimu.gunma-u.ac.jp